槻田中学校だより（学力特集号）	≪校訓≫	平成29年度
古希の風	自律の心 尊敬の情 知能の力	第8号 11月2日（木）発行 校長　峯　隆幸

平成29年度　全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語，数学）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

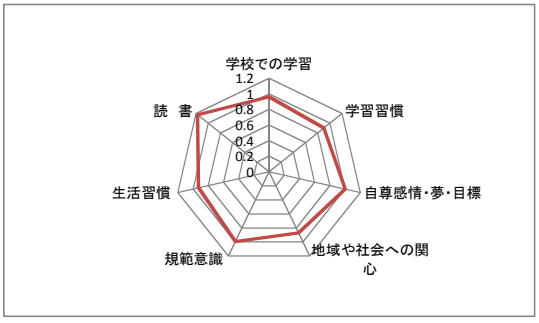
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1．教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）	全国平均正答率との比較
国語A	相手に応じて言葉を選んだり、わかりやすい表現を考えたりすることが苦手な傾向が見られた。 漢字の読みがあまりできていなかった。	上回っている
国語B	登場人物の描写を注意深く読めていなかった。 表現技法を正しく理解できていなかった。 相手にわかりやすく伝える工夫について話すことに課題がある。	上回っている
数学A	図形・関数・領域では、全国平均を少し下回った。	上回っている
数学B	図形・関数・領域では、全国平均を少し下回った。	上回っている

2．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
○　本校の生徒は読書好きで、規範意識も高く、落ち着いた学校生活を送っている。 ○　家庭での学習習慣をいかに付けるかが、本校の課題である。 ○　また、社会への関心が出始めている一方、地域への関心が高まっていない。

3．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①　教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

○　話し合い活動を活発にし、自分の考えを相手に応じてわかりやすく説明できる力を伸ばすよう取り組む。
○　定期考査前に放課後教室を開設し、基礎力の定着を図る。
○　全校的に「はがき新聞」に取り組み、表現力の伸長を図る。

②　家庭生活習慣等に関する取組

○　家庭学習が計画的にできるように、具体的なサポートをする取り組みを考える。
○　学力定着サポートシステムを活用して、家庭学習の充実に取り組む。
○　家庭学習とリンクできる授業ノート（学習プリント）の作成を目指す。